

12月25日～1月5日、年末年始をはさみ、テル・レヘシュ発掘調査団のスタッフ4名がイスラエルを再訪した。発掘調査報告書の作成に向けた集中作業を行うとともに、テル・レヘシュで発見された初期シナゴグの類例を調査するのが、今回の訪問の目的だ。最初の1週間は、調査団が基地にしているキブツ・エンドールに滞在し、室内作業と関連遺跡の調査を平行して進める。見慣れた8月の枯れ果てた光景とは違って、雨が降る日もあり、ガリラヤ地方の山々はうっすらと緑に覆われている。年明けには、テル・アヴィブ大学で考古学研究所長のオデド・リブシツ教授と再会し、副学長への表敬訪問、考古学研究所におけるワークショップの開催と研究者との交流、図書館での文献調査などの予定をこなす。

1月3日には、エルサレムの近郊を巡る日帰りの遺跡ツアーを決行。エルサレムを含むユダ地方には、イスラエルで見つかった初期シナゴグ跡8例のうち、4例が集中しているのだ。最初の目的地となったヘロディオンは、エルサレムから約12km南方、ベツレヘムの南西に所在する。テル・アヴィブから高速道路でエルサレムに向かい、町をかすめて、ナビに従って道路を進むと、車窓にはユダ砂漠の乾いた荒れ地の風景が広がり、遊牧民のテントや羊を追う少年の姿が見え隠れする。やがて、兵士が駐留する検問所が目の前に現れる。その先は、1967年の第3次中東戦争でイスラエルが占領し、実効支配を開始したいわゆる西岸地区で、1993年のオスロ合意後は、自治政府が統治するパレスチナ自治区となっているのだ。

検問を抜け、道路をさらに進むと、円錐状の小山が荒地の中に聳え立っている。これが目的地のヘロディオんで、フラヴィウス・ヨセフスの『ユダヤ戦記』によれば、紀元前24年、ヘロデ大王がパルティアおよびハスモン王朝に対する勝利の記念として、宮殿要塞を建てた場所だ。ヘロデ大王はこの地に埋葬されたとも言われている。宮殿は、第1次ユダヤ戦争に際して、熱心党の蜂起軍が有することになったが、後71年にはローマの将軍セクストゥス・ルキリウス・バッシスの手に落ちる。戦争後もこの要塞は存続し、第2次ユダヤ戦争時にはバル・コクバの軍がここを拠点の一つとした。



写真1 ヘロディオンの初期シナゴグ跡

大きな列柱郭（ペリスタイル）の南西の一面で、10～14mの広い部屋が発見され、ヘロデ時代には食堂として用いられたのが、熱心党によってシナゴグに改修されたことが判明した。会衆が集う段座席が部屋の壁沿いに取り付けられ、脇の通路口

が閉鎖され、北側の出入口前に身体や器物を清めるミクヴェ（沐浴槽）が設置されたのだ。建物の出入口は、エルサレム神殿と同じく東側を向いていて、初期シナゴグを研究する山野貴彦氏の解説によれば、蜂起軍がシナゴグを設ける際に、方向を重視して、改修する部屋を選定した可能性があるという。

第3次中東戦争の停戦後、1968～69年には、イスラエル古物法に基づいて、国立公園局のG・フェルスター氏が発掘調査を再開した。1997年以降は、ヘブライ大学のE・ネチェル教授が下の町を中心に発掘調査を継続し、2007年には、北東斜面でヘロデ大王の墓を発見したとの発表が話題を集めた。

イスラエルの文化遺産マネジメントについては、岡田真弓氏の近著が詳しいが、現在、76カ所の国立公園・自然保護区において、遺跡が単独で、



写真2 遺跡の近景と多国語解説板

あるいは遺跡が自然環境とともに保護され、一般公開されている。ヘロディオンは、第3次中東戦争の停戦後、西岸地区に設立された国立公園・自然保護区12カ所のひとつで、1967年にヘロディウム公園として整備され、現在に至っている。筆者らが見学を行った同日も、ガイダンス施設には、大型バスで乗り付けた団体客が先着して、同地が世界各地から訪れる観光客や巡礼者の見学スポットになっている状況が窺えた。公園の入口で入場料を支払って、リーフレットを受け取り、標識に従って整備された順路を進む。英語・アラビア語・ヘブライ語の多国語説明板も設置されている。発掘された重要な建築遺構は、丁寧な修復や復元が施され、初期シナゴグ跡は遺構を保護する覆い屋根もかけられている。山上からは周囲が一望でき、ヘロデがパルティアとハスモン家の連合軍を破った戦場跡で、後にはローマの支配に抵抗してユダヤ人が立て籠もったという同地の遠い歴史に思いを馳せることができる。

しかし、同時に一考させられたのは、この地域がパレスチナ自治区の領域となった今も、公園はイスラエル自然・公園局(INPA)が管理・運営を行い、遺跡公園の入口にはイスラエルの国旗とINPAの旗がたなびいていることだ。こうした状況は、イスラエルとパレスチナの複雑な関係が文化遺産マネジメントの分野にも及んでいることを映し出している。

同日は、その後、再び検問所を超えて、イスラエル領域内のラマツ・ラヘル、初期シナゴグが発掘調査で見つかった3遺跡、ホルヴァット・エトリ、モディイン、キルヤト・セフェルを駆け足で巡り、夕刻、テル・アヴィブ大学のゲスト・ハウスに帰着した。

[参考文献]

岡田真弓『イスラエルの文化遺産マネジメント 遺跡の保護と活用』慶應義塾大学出版会、2017年。